

報 寺 分 国

発行
真言宗国分寺派
大本山国分寺教学部
〒531-0064
大阪市北区国分寺
1-6-18
06-6351-5637
発行責任者 糟谷 眞教

2015
新年

諸行無常の世は仏の智慧と方便で生きる

諸行無常。昨年は多くの方々が天災で犠牲となり、一方、生活はアベノミクスというインフレ政策で格差は拡大、台所は火の車でした。そして、大義のない総選挙で年は暮れ、展望なき迷路の年明けとなりました。

いま私たちは、そんな時代を生き抜かねばなりません。人はひとりでは生きられず、互いに寄り添い助け合い、そして、仏の智慧と方便で生きられるのでしょうか。
みなさん、今年もお元気に。

新年あけましておめでとうございます
本年も、よろしくお願ひ申し上げます

国分寺管長 合田 和教

ご縁があつて、仏画家・中田恭子様の仏画「幸せを呼ぶ音色」と出合いました。独自の世界観のある絵の空間は、まさに曼荼羅を想像させる音色の教えで、感動いたしました。つまり、私の心では童子が童地蔵となり、「幸せを呼ぶ」笛の音が無限の希望を奏で、願ひが祈りを誘う調べとなりました。

思い出せば、子どもの頃は「遊び」など無欲に近い願ひがありました。大人になると競争社会に生き抜く願ひ(欲)の重圧がのしかかってきます。しかし、その我欲の追求は決して幸せな人生とはいえません。「多数の人は苦悩多し。無欲なればこの患いなし」で、他人の利(利他)を第一に考えて生きるのが仏の道、人の道なのです。本年も、多くの人々が集い語り合う寺をめざし、見果てぬ夢に挑戦します。



「幸せを呼ぶ音色」 中田 恭子



新春座談会 高野山開創1200年を 飛躍の場に

出席者

合田和教・管長 糟谷眞教・宗務総長
中谷仁見・総代会副会長 新里嘉孝・総代会編集委員
名幸観教・執事長 岩尾観水 平賀照教 野村祐輔



新里氏

合田 最初の頃は鐘をつきに来る人がなく、数珠を練って数えながら108ついでました。近頃はもう1回つきたいと並び直す人もいますし、108回をはるかに超えています。

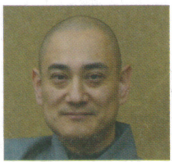
の隙間がないと焼き付く。遊びがあるからこそスムーズに。新生国分寺の第一歩が平成20年で今年7年目。高野山開創1200年に向けて、国分寺の出仕が決まったのが1年前。そして3年間ここで修行した平賀君が会奉行を務めるなどいい偶然が重なっています。新里 除夜の鐘も一番につきたいと表に並んでおられる、うれしい光景です。



中谷氏

新里 我ながら不器用な人間で、心で思っても表現するのが照れくさい。ありがとうの気持ち素直に言葉にしたいですね。

司会 今年の抱負をお聞きかせください。中谷 毎日を笑いながら楽しく過ごすこと。楽しくない人生なんて面白くないし、折り返し点へ来ますから。



糟谷宗務総長

糟谷 関東別院の本当の始まりは今から。どう活動の場にしていくかです。本山が1300年やってきた一部を関東の道場として担ってもらうこと、そして地域への布教の場とする2つの柱で展開します。基盤も一切ない中での檀家さんづくりです。月並法要で定期的な行事を見てもらいたい。

くいけば、人が集まり情報交換の場ができればできるほど、新しいものが生まれます。関東別院は土地の人と話す中で違う発想が生まれるでしょう。積んでこられたことが高野山で実を結ぶことを期待しています。

声明とお経で高野山出仕



名幸執事長

名幸 一昨年11月から高野山の開創法要に携わってきました。真言宗国分寺派として単一の出仕は初めてでワクワクしています。共に成し遂げてきたことを独自性のあるカタチで高野山でもやりたい。高野山に行かれる国分寺関係者も檀信徒の皆さんも同じ思いで手を合わせられる環境づくりをします。特別な雰囲気の中で各自の持つものを引き出すのが裏方の仕事です。司会 特殊な雰囲気とはどんな感じですか。名幸 頭が真っ白になるでしょうね。



岩尾

岩尾 たえば職業の中に1人欠員が出れば会奉行が全部カバーします。お経も作法も全てできて、統括できないと会奉行が務まらないんです。

薄暗い中、スポットライトを浴びて、外から光が差し込んでくる、静寂の中の法要です。合田 国分寺の何倍もある空間で声明やお経だけ。国分寺流の鉦や鉢が鳴ったりが一切ないんです。名幸 うちが得意な「どんちゃん」がやがやが得意な「どんちゃん」がやがや、何よりお大師さんの真ん前でやるので極度の緊張感があるでしょうね。岩尾 高野山が作られたのは教えを広めるために人を育てるといふこと。下の人を一番大事にしないといふ教えは、自分が亡くなった後も下の人が思いを継いでくれるからです。私も育ちの途上ですけれど、平賀君からいい刺激をもらい彼は彼で頑張っている。たまに「テヘッ、失敗しちゃった」みたいな笑顔が彼から出ます(笑)。名幸 彼が、国分寺が務める開創法要の会奉行は、裏を取り仕切る責任者です。合田 10年、20年先には、お大師さんの大事な年忌、御遠忌が来ます。彼らが中心だから経験してもらわないといかんのです。

高野山開創の原点

中谷 昨年、関東別院落慶法要に行きましたが、行った甲斐がありました。そのパワーを5月の高野山でさらに大きく発揮してほしい。

合田 お大師さんも修行の場として、後輩に教える、学ぶを目的に高野山を開創された。最初は勉強するための環境づくりでした。私たちが関東別院を勉強の場として創ったのは規模は違えど同じ発想。後進につないでいく、継げる人、守れる人を育てていくためです。お大師さんもお弟子さんの特性を見極めて、勉強する人、布教する人を作った。仏教の根本は人はどうやって生きていくか、どうやって生かされているかで、生きるための教え。どれだけ自然と協調して生きられるかが密教の教えです。



合田管長

合田 京都の種智院大学です。私はここ2年ほど、その評議員を務めさせていただいています。仏教は学生が少ないのに悩んでいます。新里 サッカーの岡田監督は「サッカーの世界で1+1は3にも4にもなっていく」と。連携やつながりうま

でなく、見に来ていただいている皆さんがよかつたら一番のご褒美なので(笑)。合田 どれだけの人が積極的に参加してくれるかです。厳かな儀式といっても皆が集って初めて成り立つもの。中で拝む人が手を合わせている時に、外でも一緒に合わせていただく。その雰囲気を作ってほしいと思います。平賀 僕は今年で国分寺3年目。右も左も分からず、何をしたらいいか迷いながら出張に行ったり、外の法要などを経験させてもらいました。見てきたことを最大限生かして高野山でもと意気込んでます。精一杯できるような5月までを駆け抜けていきたい。その後の御遠忌にもつながるよう精一杯頑張ります。司会 法要ごとにお手伝いして頂いてる野村さんは名幸執事長と小中高の同級生。一言どうぞ。野村 今日はたまたま遊びに来ました。僕は昔、空手を教えてたので人を育てる難しさは分かっています。平賀君には自分の色を出してもいいかなと。自分を伸ばせる機会を与えてもらったことで、ひと回り成長することを期待しています。司会 5月の高野山、無事にお務めを果し笑顔で下山できる年になりますように。

関東別院だより

関東別院も落慶からはや半年となりその間月並法会は勿論の事、道場としての活動も始まっています。先日おこなった関東、東北方面の末寺様の勉強会では本山職員も数日泊まり込みで大変有意義な勉強会となりました。

さてこのような関東別院ですが今回は改修工事のはじまりからの変遷を掲載させていただきます。



工事前外観

本格的に工事が、始まるまで半年ほどあったのですが最初は自ら作成したお不動様をお祀りする小さな祠からスタートしました。



祠

平成23年9月から工事が始まり徐々にお堂の形になっていく様は、本当に感動的でした。



すべて杉の一枚板からなる壁ですが天井はまだ鉄骨がむき出し

実はこれだけの工事を行う上での図面は存在しません。なぜならすべて現場の打ち合わせから進めていったからなのです。図面は養生用の板の上にも原寸大で書いたりしながら行われました。現代の住宅建築からは想像できないかもしれませんが、続きは次号で！

謹賀新年 今を有意義なものに

大本山国分寺

顧問会会長 中村興司

今年の干支は乙未で俗にいう「ひつじ」年であります。

この「ひつじ」年は、安岡正篤先生によりますと、いろいろと抵抗に合い、面倒なことが生い茂り、陰気になりがちで、従来の勢力と新しい勢力が衝突することになると言われます。煩わしい事やよくない事を思い切つて払い落としていかねばならない年とされています。

今年は真言宗におきましては開創1200年の記念すべき年です。弘法大師空海の手で密教の道場が開かれてから1200年目を迎えました。国分寺におきましては5月17日に高野山で、国、社会の安泰と永遠を祈り、多くの人々の幸福のために活躍しうる人材を育成したいという思いから開創されたお大師様へ想いを馳せましょう。三密すなわち、「身体と言葉と気持ち」を偏ることなく用いることで、1日1日を大切に、今この瞬間を有意義なものとしていきましょう。

今年も顧問会を含めた皆様にご相

談、ご協力をいただきながら各行事を進めて参りますが、「国分寺さんに来てよかった」と思ってお寺の門をくぐっていただけるような企画を国分寺

ポジティブに生きる中村哲学

「4畳半に住もうが楽しい人もいれば、100畳に住んで不幸な人もいます。価値観一つで幸せにも不幸にもなるのが人間」、中村さんの言葉には発見と含蓄がありました。私たはいつから「お金が全て」と宗旨替えしたのでしょうか。自らを律する「分相応に生きる」はもはや死語となり、自明の理として慎ましく身の丈大に生きた世代の姿を忘れ、発展の中でいつしか拝金の道へと迷い込んでいます。「衣食足りて礼節を知る」は、今や「衣食足りて礼節を欠く」ありさまですから。

一方、電車でも乗客のほとんどが携帯やスマートフォンを触る姿が当たり前。「外国ではあまり見かけない光景」と中村さんはいいます。「これらが普及すればするほど時間の大切さが忘れられ、世界で一番目に見えないものを信じた日本人が、今では目に見えるものしか信じない民族になったのでは」と。そんな世相を背景に「目に見えないものを信じるこ

顧問会としても考えて行きたいと思えます。今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

とを開創1200年で考え、国分寺に開つてよかったと実体験できる1年にしたもの。

世界を舞台に活躍する経営者であり、求道者でもある中村さんの世界観、



昨年の地藏盆会

同時代をポジティブに生きる哲学はインパクトに満ちていました。頭の中をかき廻され心動くお話を聞くことができ、編集者冥利に尽きる取材となりました。感謝。

平成27年国分寺会と 高野山開創1200年記念大法会の お知らせ



本年の国分寺会は5月16日に国分寺で、また17日は和歌山県高野山・奥之院燈籠堂で行います。

例年は5月の第3日曜日に国分寺で行っていた行事ですが、平成25年11月に高野山真言宗・宗務庁より出仕要請がありました。以後、調整を進め、高野山開創1200年記念大法会に出仕する運びとなりました。

真言宗の寺院として弘法大師空海が御入定されている奥之院燈籠堂での法会は国分寺にとっても、また真言宗国分寺派にとっても多くの経験・糧となります。

この2日間の良縁の法会・時間を是非とも、全国の皆様と共有したいと考えて団体参拝を組む事となりましたので、皆様のご参加をお待ちしております。

檀信徒の皆様と各僧侶が一つとなり、国分寺並びに奥之院燈籠堂での法会を成功させたいと考えております。

本年の国分寺会と 高野山開創法会の特色

例年の国分寺会では仏具や鳴り物を最大限に生かし、「僧侶と檀信徒の皆様が参加していただける法要」を目指し法会を組んでおります。

本年は「僧侶の読経」に特化した次第（お経の組立）を作成し、鳴り物を使わずに「僧侶の声」並びに「僧侶が放つ雰囲気」を見ていただき、「皆様の中の想いを僧侶の読経により仏様へ届ける法要」をめざします。その理由は、奥之院燈籠堂では鳴り物が一切使えない制約があり、宗祖弘法大師の御前での法会は厳かに行うことが決められております。ですから真言宗国分寺派としても国分寺をはじめ各寺院の僧侶と研鑽を重ね、全僧侶が心を一つに合せて読経しお勤めをいたします。

そのため、例年の国分寺会ではあまり使っていない抑揚のついたお経（声明）を次第の中に多数取り入れ、カイタク（木の棒）の音の一つで各僧侶が合わせていくという方法を取ります。

これらの法要の一番の違いは例年の「参加していただいた皆様が楽しくなる法会」が、本年は「聞いていて読経に吸い込まれるような感覚の法会」になることです。例年とは対極の法会であり、ご参加いただく皆様にとってはまた違った国分寺の一面を感じていただけるよう研鑽に励んでおります。

高野山開創1200年記念大法要

諸行無常の世、今も息づくお大師さんの高野で静かに「人はどう生きるべきか」を自問自答してみませんか



根本大塔（壇上伽藍）

空海（弘法大師）は774年、四国の讃岐（香川県）で生まれ、20歳で受戒。四国の各地で厳しい山岳修験をしたという。804年31歳のとき入唐し、長安の青竜寺高僧・惠果から密教の奥義を伝授。帰国後、各地で真言密教を広め816年、時の嵯峨天皇より高野の地を賜り真言密教の聖地とし、金剛峯寺を開創。同時に与えられた東寺を密教の根本道場とした。

だが、大師は835年、御入定（即身成仏）。高弟の真然大徳が高野の伽藍を完成することになる。

以来、そこは落雷、火災、そして信長、秀吉らによる高野攻めに抗し、耐え、そして現在の姿（世界文化遺産）をとどめている。

大師に「後夜に仏法僧の鳥を聞く」との詩がある（「性霊集補闕抄」）。

閑林に獨り坐す、草堂の暁 三寶の声
一鳥、聲有り 人、心有り
聲心雲水俱に了たり

山奥の草堂で深い瞑想にふけつていた夜明け、仏法僧（三宝）と鳴く鳥の声が聞こえる。大自然の中で、それを自然に受け入れる修禪の人。それらが共に融合、一体化する情景が見事に読まれている（註・仏に悟りを開いた人ブツダ。宝に仏の教え。僧に教えを受けて修行する者）。

大師は、仏教を顕教と密教に分け、密教を奥深い考えとして、大日如来と一体化して修業すれば、この身が仏になる（即身成仏）と説いた。哲学者・梅原猛氏は作家・陳舜臣氏との対談で、「密教は燃える生命、自然と一体となっているのがいい。——自然の中に蜜がある」「空海とは生命のシンボル、それこそ宇宙そのもの」と語っている。釈迦は、人は生かされて生きていることを自覚する「知恵・報恩」を説き、大師は、父母・国（王）・衆生・三宝の恩の四恩酬答を自ら実践し、それを教化された。

人生はとめどなく流れる無常の川。その中で、私たちは何をめざし、どう生きるべきかを自問し、今なお大師の息づかいが聞こえる高野の大自然へ、みんなで行ってみましょう。

お護摩を焚いて秋彼岸会 迷子の犬もやつてきた



昨年9月23日、大本山国分寺内昭和
金堂で、秋彼岸会が厳修されました。

秋彼岸会は、国分寺定期法要で皆様
のご先祖様のご供養は勿論のこと、所
願成就家門繁栄のお護摩を焚く法要で
別名「百萬枚大護摩供」とも呼ばれて
います。また、北海道産のじゃがいも
を使ったじゃがバターの接待も人気
で、皆様秋の実りをご堪能されていま
した。

昨年の秋彼岸会では小さなハブニン
グがありました。境内に迷い込んで
きた一匹の犬。やせ細った体にブカ



ブカの首輪、どうやら飼い主とはぐれ
て時間が立っているようです。すると
一人の檀家様が「私、食べ物を買って
くる」と言われペットフードを差し入
れてもらいました。迷い犬に与えると
あつという間にたいらげてしまいました
た。相当お腹が空いていたようで、次
のジャーキーもまたたく間に・・・。
その檀家様は、「よかった」と帰って
いかれました。

秋彼岸会（総回向）が13時から行わ
れるので、職員が寺の前の公園に犬を
放しました。そして総回向が終わり片
付けをしていると、別の檀家様が「こ
の犬、誰かの飼い犬？」と先ほどの犬
を連れて来寺。「迷い犬なんですよ」
と職員が答えると「じゃあ交番に届け
てくる」と交番へ。

後日、檀家様の家にお参りに行くと、
「あの時の犬、飼い主見つかったよ」
と言われ、よかったと胸を撫で下ろし
た次第。人の親切心を感じることで
きた良い1日となりました。

「犬も家族の一員」という時代。そ
こで「迷い犬」の話ですが、人も同じ、
「迷い子」ではないでしょうか。混と
んとした時代、その激流に身をまかせ、
流されては何処へ漂着するやら分かり
ません。仏にすがって、己を見つめ、
どう生きるべきかを考えたいもの。「迷
い子」から人間として、人生街道を歩
き続けましょう。

不動霊場めぐり心さわやか 手を合わせ祈った秋の1日

秋の団体参拝

10月16日朝、36不動尊をめぐり秋の団
体参拝一行が出発のときを待っていた国
分寺金堂。ガラガラと引き戸が開くと同
時に飛び込んできた「こわいー」の
幼い声。家族に連れられてやつてきた2



よく歩きました

歳半の男の子、最年少の参加者です。
薬師如来像に目が釘付けになり「オバ
ケ来るウー」の絶叫が響きました。
不安をそのまま投げ出した幼な子の無
心の魂と愛らしさに大人たちの笑みが
こぼれ、一同、なごみをまもって京都
山科へ出発しました。

最初の訪問先、岩屋寺は山科の街並
みを一望する尼寺で、赤穂藩家老、大
石内蔵助ゆかりの寺。四十七士の位牌
がここにあります。特筆すべきは案
内して下さった富田喜代子さんの語
り。四十七士にまつわる数々のエビ
ソード、「心のおみやげをもって帰っ
てほしい」と語られた印象深い話には
青天の霹靂の逸話も。引き込まれてし



岩屋寺で祈る

まいました。訪問される機会があれば、
富田さんのお話を聞かれることをお勧
めします。

続いて大津市の圓満院門跡へ。重要
文化財「宸殿」を見学後、琵琶湖ホテ
ルで昼食。

昼から比叡山延暦寺の根本中堂、さ
らに1キロ山道を歩き無動寺明王堂を
参拝し、最後は京都市東山の將軍塚青
龍殿を訪ねました。青龍殿は歴史的建
造物、武徳殿を北野天満宮前から東山
へ解体して移築、再建したものの。青蓮
院門跡の飛び地境内としてお披露目直
後の訪問です。清水の舞台の5倍近い
広さで2000人を収容できる、せり



無動寺明王堂への途中で



最年少の参加者



とにかく広い將軍塚青龍殿の大舞台

だした大舞台から眺める京都の町は一
幅の絵巻物のよう。落慶を記念して国
宝青不動明王も御開帳されており、東
伏見門跡の語られた再建への道のりの
お話にも熱が籠っていました。夕闇が
迫り、ライトアップされた広大な庭と
京都市内を一望できるロケーションの
良さは新たな観光スポットの誕生と言
えましょう。参加者から歓声が上がっ
ていました。

今年の団体参拝は5月17日、開創
1200年の高野山、お大師さんの元
へ参ります。共に登りましょう。多く
の方のご参加をお待ちしています。



不死鳥は魂を天に運んでくれる。天には6羽の鳥が居る。美しい声でコロコロ鳴いて魂をきれいに洗ってくれるという

第19回 日本の美術 マルセル・タイ(ゴーギャンの御令孫)賞 受賞作

中田 恭子 「来迎図」

琵琶紅山龍最寺

夕日百選の地の信者寺

人々の心の拠りどころ

滋賀県の龍最寺は、湖北地方、姉川の近くにあるお寺です。湖北は比叡山の鬼門にあたり、昔は山岳仏教が栄えたところ。観音信仰も強い土地柄で、近辺には天台宗の傑僧・元三大師の生誕地があり、NHK大河ドラマの舞台となった小谷城のテーマパークも。このエリアの真言宗のお寺は檀家さんのない信者寺の多いのが特徴だそうです。龍最寺のご本尊は厨子の中におられる千手千眼観世音菩薩で、入口では白衣観音、お地藏さんがお迎えしてくれます。65年前に先代住職、龍賢さんが龍最院を開山。平成23年7月に国分寺合田管長から「琵琶紅山」の山号を

国分寺派のお寺 その1



龍最寺ご住職ファミリー

授けられ、龍最寺と変わりました。お寺を回されているのはご住職の黒木真照さんとご主人の法教さん。真照さんの母は先代の尼僧です。「うちは典型的な信者寺。檀家はなく昔ながらの密教のお伺いを柱に信徒の方々の悩みや相談ごとに乗る、いわばカウンセラーの役割を果たしています」と法教さん。日々の心の拠りどころとして頼りにされている龍最寺です。



信者さんの95%が女性です。相談者はほとんど女性なので、奥さんの真照さんがカウンセリングに専念。外回りや月

参り、地鎮祭、法事、宗派が違っても依頼される先祖供養などに法教さんが対応し、役割を分担しています。月並法要は毎月12日、28日で、毎回30名から40名が参加。また春大祭、秋大祭には鳴り釜法要も。今年からスタートした地藏盆会は初の試みでしたが、大人も子どももたくさんのお参りがあり、焼きそばの接待とボールすくいであしらっていただいたとのこと。 「不思議体験をされた方が結構こら



お顔に微笑みが出た白衣観音

れます」と真照さん。不思議な現象として紹介して下さったのが、昨年1月に撮影した入口の白衣観音様のお顔に微笑みが出ていたこと(写真)。建立以来4年、初めてのことで驚かれたようです。

近くの琵琶湖から見る夕日が「夕日百選」にも選ばれる風光明媚なスポットに恵まれる龍最寺です。山号「琵琶紅山」について「琵琶湖の紅に染まった夕日を見て感激し、心身ともに安らぐような寺であれば」と解釈し日々精進するお二人。「国分寺の合田管長にお世話になり法要や団参などに声をかけていただき今日に至りました。得度はしていたものの2人とも仕事を持っていたので、お寺らしいことに専念できなかったのですが、ご縁を機に精進させていただいています」として新しいことにも着手。いろいろな知識を学びたいと修行に励まれている住職ご夫妻です。

龍最寺住所

滋賀県長浜市月ヶ瀬町545

新年、世界の願いはひとつ

お坊さんが走るという意味の「師走」、年内に終えねばならないことのために、時間が加速する。そして迎える大晦日。新年と称して時間に区切りを設け、まっさらな時間を生き直そうとする人間の知恵はすごい。

国分寺の除夜の鐘は年々参加者が増

え、若者も多くなった。長蛇の列が塀を取り巻くのが恒例の風景に。境内でも鐘を突く人の列が幾重にもでき、108つの煩惱を捨て希望に向かって鐘が響く。元気な音、遠慮がちな音、人さまざまにつき鳴らし、余韻も掻き消すほどに入れ代わり立ち代わりの鐘つきが遅くまで続いた。

普段は顔を合わすことのない近隣の

新しい年への祈り込め

除夜の鐘街にひびき渡る

春よ来い 早く来い

生きとし生けるものすべてに



く希望に向かって歩きたい。

厳粛な思いを込めた日本の大晦日とは異なり、南イタリアのすさまじい大晦日をこぞいだろうか。

イタリア映画「ニューシネマパラダイス」にも登場したが、ヒビが入った古くなった皿がアパートの窓から投げ落とされる。頭上から落下する皿に

直撃される危険極まりないこの夜。一

歩外に出たら命をかねばならない年越しだなんて。陽気な南イタリアの度胆を抜かれる大晦日風景だ。

いろんな出来事があった昨年。自然災害の脅威にさらされ、貧富の差が拡大し二極化しつつある私たちの暮らしの



鐘つきを待つ人の列が続く

人たちが、お寺に寄合って希望を鐘に託す特別な雰囲気がこの夜を包む。若者たちの弾んだ顔、眠気も吹っ飛ばして晴れがましい表情の子どもたち。鐘をつき、神社に参拝する日本人の新年の習俗は、DNAにしっかりと組み込まれているのだろう。時代が変わろうが、無信心であろうが、これをしないと落ち着かない気分になってしまうのも不思議だ。1年の厄を落とし、また新し

健太のひとりごと 1

私は国分寺の職員となり、コミュニケーション能力が豊かになったと感じています。幼い頃から体が大きいにも関わらず、内気で立たず、人に話しかける事は数えられる程しかありません。

そんな中、国分寺に入り人と接する機会が格段と増え、戸惑った事を覚えています。仏教やお寺に関する思いは人一倍あると自負していましたが、何て自分は人との関わり方が下手なのだろう、と。

変わらなければと我にかえり、ふと周りを見渡すと見習うべき国分寺の職員の方々、そして様々な人生経験をお持ちの檀家さんがいらつしやいました。多様な価値観を持つ人々にもまれる事で、まだまだ未熟ですが自己表現する力やコミュニケーション能力を身に着けられました。

私が国分寺の職員となり2年がたとうとしています。たった1年少々で、自分自身成長を感じられたという事は、この先更に経験した事のないことが待ち受けているのでしょうか。そんな中、自分をどう成長させられるのか、楽しみでもあります。日々関わる全ての方々に感謝し、環境にもまれながら日々精進していきたいと考えています。

合掌

平和 健康 暮らし

総本山・各寺院・講社御用達

土産物一式、各種念珠、仏具仏像、位牌、軸物、仏書経木、経木塔婆、各種守札、杓子、金剛流御詠歌法具、教典一式

珠数屋佳兵衛

たんげ

和歌山県高野山 電話高野(0736) 2159番 振替 00960-8-68291 郵便番号 648-0211

—安価 安全 安心—

いま人気の 永代管理のお墓 永代供養

「継承者がいない」にお応えし 絶対無縁さんを出しません

国分寺派 宝蔵寺・南野霊園

072-862-0594

MK 良い材料で良い住まい

生コン・建築材料・工具資材全般・リフォーム・外構・ブロック・各種工事施工

(株)マキタ特約店

有限会社 **南建材社**

〒531-0041 大阪市北区天神橋7丁目12番4号
TEL 06-6351-5516 (代表)・4698
FAX 06-6353-6439
URL http://www.minamikenzai.co.jp

募集

俳句、川柳、写真、エッセイ等
日常生活の中での作品

応募要領

- ・上記作品は、よければ住所、氏名、お電話等を記載し、国分寺へお届けください。
- ・採用作品は国分寺寺報に掲載します。
- ・なお、エッセイ等の文章は、200字位でお願いいたします。

俳句や川柳、エッセイ等「生活レベルの応募を」と呼びかけても反応が鈍いのは承知の上。そこで、粘り強く訴えることにしました。

すべての生活や創作には、リズムがあります。音楽は体の鼓動に合った波長だから心に響き、文章も呼吸に調和するから、すくと頭に入るんですね。典型的なのが5・7・5の句。ですから体の力を抜き自然体で創作されたいかがでしょうか。

ふるさとの山に向ひて言ふことなし
ふるさとの山はありがたきかな(啄木)のように。

私は最近、こんな句で楽しんでます。
官ドラで秀より康が偉くみえ(官田)

黒田官兵衛 秀二 秀吉 康二 家康

むかしはね大言壮語で空回り
いまはね井ノ蛙道を駆けめぐる(馬の骨)

国分寺中興300年大要
記念事業御寄進一覧(順不同・敬称略)

- (青森県) 蒔田光明
- (石川県) 久保喜一
- (大阪府) 滝澤壽俊・山口徹・西尾康子・河野満・米倉彰・橋本嘉重・渡辺信子・當間元雄・大井ミチ子・須浪毅・桑平照子・井上宗一・中山スミエ・福田道子・高木幸子・井川幸太郎・中津かず子

大本山国分寺
平成27年度上半期行事

- 1月1日 正月会(除夜の鐘)
- 12月31日23時 節分
- 2月1〜7日 節分(金光明最勝王経秘法祈願会)
- 3月春分の日 春彼岸会
- 5月第3土曜日 国分寺会
- 5月第3日曜日 高野山開創1200年大法会(高野山奥の院燈籠堂にて)

節分

節分の日を中日とした前後3日間計1週間、皆様から集められた大願を成就するべくご祈願いたします。(注)非公開の法要です。

春彼岸会

皆様のご先祖様を卒塔婆に写し、午後1時より国分寺僧侶による「総回向」が行われます。境内で炊き出しによる「御接待」がありますので、どなた様

健さんの一生は菩薩行

さて、国民から愛された高倉健(83)さんが昨年11月10日、他界。国内外から悲しみの声が上がりました。生前、健さんは、「感動はカネやモノでは得られない」「鳥肌が立つような感動で好きな映画の主人公を演じる」と言っています。その生きざまが多くの人々を魅了したのでしよう。

ある人が健さんへ「何を求める風の中ゆく」と、山頭火の句を紹介したら、彼は「人間、何を求めて生きたかなんですすね」と、応えたという。まさに「人は死して名を残す」で、お金ではありません。

健さんの座右の銘は、比叡山大阿闍梨、酒井雄哉氏の言葉「行く道は精進にして、忍びて終わり悔いなし」という。健さんは、その道をひたすら歩き続け、悔いのない人生を終えたのでしよう。

だから、多くの人たちは彼の人生に「そうありがたい」という人生像を見るのでしよう。健さん！ありがとうございます。「幾山河、越えざりゆかば寂しさの、果てなん国ぞ今日も旅ゆく」(牧水)という人生を今、私たちは旅しています。旅は仏を杖に句を道づれつてどうでしょうか。少し、足取りが軽くなるように思いますが。

- 西岡禎子・島田孝至・向井利雄・細木義則・押条正雄・濱野殿夫・足立陽夫・奥野邦子・石井忠夫・錦剛司・計盛章・比古・仁木俊弘・中谷仁見・鈴木良造・佐伯昌宏・大久保紀・中津かず子
- (岐阜県) 西部鳳齋
- (高知県) 倉橋一行
- (埼玉県) 斧宗慶・久保田明宏
- (滋賀県) 奥村修法

国分寺会

1年に1回国分寺で執行される、大本山国分寺並びに真言宗国分寺派の大法会です。北海道から九州まで国分寺派僧侶による先祖供養やご祈願を主とした法要で、毎年、前年と異なる「修法」で行われています。

高野山1200年開創法会

大本山国分寺、並びに真言宗国分寺派僧侶が高野山奥の院燈籠堂で法要を行います。また皆様のご先祖様を回向した後に、大過去帳の奉納式があります。

春の団体参拝

毎年3月下旬に大本山国分寺では、春の団体参拝を行いますが、本年は高野山開創1200年大法会に合わせ、5月16〜17日(高野山一泊)と5月17日帰り参拝を行います。募集要項は別紙で記載致しますので皆様お誘い合わせの上ご参加ください。

御寄進のお願い

常々より大本山国分寺護持にご尽力賜り心から厚く御礼申し上げます。さて本山では、お気付きの方もおられると存じますが、境内北堀脇に家族葬の出来る会館の運用を始めました。1棟まるごとお貸しいたしますので、かつて普通に行われていた故人を自宅から送るような「気持ちのやすらぐ」ご葬儀が可能で御座います。30名程まで対応できますので気軽にお声掛け下さい。



国分寺会館

菩提山常光寺の落慶法要

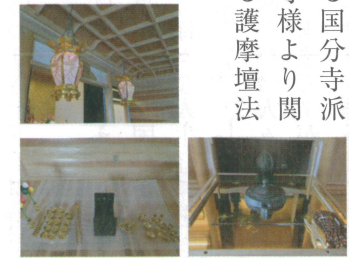
花巻市常光寺本堂で、東国寺(平賀瑞教師兼務)檀信徒、感応院をはじめ多くの弟子ともども、本山管長、総長が出仕し、護摩付き法要をとり行なわれました。荒廃していた同寺を境内地の整理をし、八十八本



常光寺親授式

ご時世の中、多大なる御支援を頂いており、境内整備やお堂の修復を順次進めておりますが、まだまだ皆様のご支援なくしては成り立たず、大変心苦しく存じますが更なるご支援を賜りますよう何卒ご理解いただき、深く深くお願い申し上げます。最後に祈念して御座います。多幸を祈念しております。

関東別院護摩用具ご寄進御礼
北海道にある国分寺派別格本山観照寺様より関東別院における護摩壇法具一式他をご寄進いただきました。心より厚く御礼申し上げます。



尊石像、また新しく弘法大師石像も安置され、本堂も荘厳にされ、ますますの寺内興隆が感じられます。またこれを記念し、本山に対し、高野山開創1200年記念法会の準備とし、東国寺、常光寺、感応院から各100万円の御志納がありました。有難うございませう。



常光寺落慶記念写真

- (徳島県) 長尾光隆
- (兵庫県) 富松敏一・永所十生夫・木寺武久・西村輝幸・久保田啓夫・松浦裕子・安井真弘
- (福岡県) 川原朋美・高橋秀玉・石田康美・林瑞剛
- (福島県) 渡辺妙勝

- (北海道) 森元裕子・高山サワ・田中美峰子・今野サト・寺島祥法・佐々木観教・田中明修・塚本宝順
- (宮崎県) 若林要子・園田光洋
- (山口県) 山下敦子・井田覚恵・西見光法

光堂 翠堂 仏壇 仏具

淡路駅前店 〒533-0032
大阪市東淀川区淡路4の9の12
電話 06(6324)0801(代表)

山葬 yamasou

1. 山葬はご家族の想いを大切にいたします。
2. 精一杯お手伝いさせていただきます。
3. ご家族・友人でおくる低価格の家族葬をご提案いたします。

〒530-0026 大阪府大阪市北区神山町10-13 KENTUCKY II 501
TEL 06-6365-1771 FAX 06-6365-1772
携帯 090-7487-6889 (山本)
E-mail yamasoumail@gmail.com
URL http://www.nisso-osaka.com

創業80年 葬儀社花熊 家族葬専用式場

Flower Hall

花熊フローベアホール
北斎場前
大阪市北区長柄西1丁目3-33
0120-130-930

納得価格で、誰もが満足のいく葬儀を提供します。
無理のない、充実した家族葬

創業明治十年 直葬から一般葬まで
家族葬の川上葬祭

大阪府規格葬儀取扱指定店 厚生労働省認定 葬祭ディレクター技能審査1級葬祭ディレクター在籍
本社：生野区橋台1-10-10 キヤ店：北区天神橋6-1-1 天王寺店：天王寺区寺町1-3-5

電話受付 24時間 (年中無休) **0120-420-441**

地域限定

これが常識

オーシロ カズミ

新連載



その1 仕事はみんなで分け合うもの

インドとその周辺の国では、すぐさま簡単な仕事をたいまつに待たされたことはないだろうか。これらの国では仕事の範囲が非常に限定されており、持ち場以外の仕事は誰もしてほれないと思った方がいい。

ホテルにチェックインすると、鍵を南ける人と荷物を運ぶ人が2、3人ついて来る。しばらくすると部屋を掃除する人も来て、次にフロアボーイが飲み水を運んで来る。(生水なのでもちろん飲まない方がいい)ここでお茶でも注文するとレストランの従業員が出勤に来て、料金は会計係が回収に来る。これだけで7人分のチップがいる。日本の感覚で小銭は失礼なんて思っている人は、さあでも足りていない。しかし、鍵さえあれば全部いじりまわすことができる。何故仕事をこんなに細かく割り振るのだろうか。



今では表面上廃止されたが、カーストと呼ばれる身分制度によって、就業できる仕事は細分化されたのも事実だ。しかし、なによりインド周辺諸国は貧しい。仕事をひとり占めしては、食べられない者が必ず出てくる。だからひとりでも多くの人に仕事が行き渡るよう、人々は絶えず気づかい合って生きていくのだ。

バンガロールデジューの首都ダッカには、仕事を求めて地方から出て来た人が約50万人、リキシャ(人力車)の運転手として働いているが、この人たちの仕事を守るため、自転車の使用が禁止されているほどなのだ。——これらの国では、お菓子屋の店先に物乞いさんが群がっていても、店主は決して追い払ったりしない。車の免許を持つ人でも自分では運転せず、運転手を雇うのが普通なのだ。



遺跡を観光するのに車をチャーターしたり、運転手とガイドと通訳が別々に来た。西替しよう銀行に行ったら、1枚の書類にいろいろな部署のサインを集めて回らねばならず、2時間もかかったことがある。「あんたがすれば済むんじゃないか!」……イラチな私は何度かステリーを起こしたかもしれん

自分だけ生き残ってもつまらない……効率より多くの雇用を選ぶこの人たちの懐ろの深さには、ただただ脱帽だ。——んわけだから、みなさん、少々のお払いだちはどうにか頑張ってあげてくださいませませ

